

# JSSM 第 38 回全国大会原稿テンプレート

## The template file for the 38<sup>th</sup> Annual Conference of JSSM

日本一郎\*      安全良子\*      管理 学†  
Ichiroh NIHON\*      Ryoko ANZEN\*      Manabu KANRI†

\* 工学院大学 情報学部

† 情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科

\* Faculty of Informatics, Kogakuin University

† Graduate School of Information Security, INSTITUTE of INFORMATION SECURITY

### 要旨

要旨は、邦文で 600～800 文字程度の概要を記載する。(1 行: 11 ポイントの文字で 45 文字程度) 参考として、要旨部の 1 行の文字数が分かるよう以下に 1～0 の数字全角を連続し記載する。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

### キーワード

日本, 安全, 情報, 管理, 学会 (3～6 個のキーワードをつける)

## 1. はじめに

原稿作成は、日本セキュリティ・マネジメント学会「学会誌研究論文等投稿規定」原稿執筆要項に従うが、第 38 回全国大会では、原稿は図表などを含め電子ファイルとして完成し、メール添付で提出して頂くこととした。

そのために、原稿執筆要項に準じた latex の簡易テンプレートを作成した。原稿作成は、このテンプレートを利用し、原稿提出は、latex 原稿ならびに画像等ソースファイル一式、および確認用の PDF 原稿を提出していただくようお願いする。

原稿枚数に特段の制限はないが、6-8 枚程度を目安とする。

## 2. テンプレート

このテンプレートは、A4 用紙サイズ、余白は「上下余白 20mm, 左右余白 25mm」で設定されている。

表題、執筆者名、所属機関名(邦文、英文とも)は、本レイアウト枠内で記載する。

この書式の要旨は 1 段組 (45 文字程度 / 1 行)、本文は 2 段組 (20 文字程度 / 1 行) の設定がなされている。

参考として、2 段組の本文の 1 行の文字数が分かるよう以下に 1～0 の数字全角を連続し記載する。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3

## 3. 原稿提出先・締め切り

原稿提出先:

第 38 回全国大会プログラム委員会の審査により報告が採用された方は、原稿を作成し、latex 原稿および確認用の PDF 原稿を、メールに添付し下記アドレスに送付する。

提出先アドレス: [jssm38conf@jssm.net](mailto:jssm38conf@jssm.net)

上記のメールアドレス経由以外では、原稿は受け付けない。

締め切り: 2025 年 8 月 4 日 (月)

## 4. 原稿作成

文章は、「……である」調の文体(常体)で、なるべく常用漢字、新仮名使いによって書く。

本文では、参考文献を適切に引用し、当論文の研究上の位置づけ、主張の概要などを明確にする。

ただし、他文献からの引用・転載については、著作権を尊重し、無断流用、正当な範囲を超える引用、転載は行わない。

脚注を必要とするときは、本文中の該当個所に、\*<sup>1</sup>, \*<sup>2</sup>, \*<sup>3</sup>, \*<sup>4</sup> の記号を付して、きりのよい箇所に脚注を記載する。

但し、本大会では latex の機能を使用し、この例のように脚注を記載してよい\*<sup>1</sup>。

\*<sup>1</sup> この脚注は latex の機能で付けている。

#### 4.1. フォント

原稿で用いるフォントは原則としてこのテンプレートに従う。

フォントの種類：

このテンプレートでは、邦文の表題と本文内の見出しのみゴシック、その他は明朝とし、英文はすべて Times としている。

フォントのサイズ：

表題（邦文）	LARGE
表題（英文）	Large
執筆者（所属機関）	normalsize
要旨	normalsize
本文内の見出し	Large, large
本文	normalsize
脚注	small

#### 4.2. 図・表

図表の番号は、下記の例を参考に図 1、表 1 などとする。

2 段組で原稿を作成した場合でも、本文中の図表は、2 段にまたがってもかまわない。このような場合は、figure\*環境、table\*環境を用いる。

なお、図表の作成に使用した資料・文献などは、必ず出典を明らかにする。

図・表の作成例：

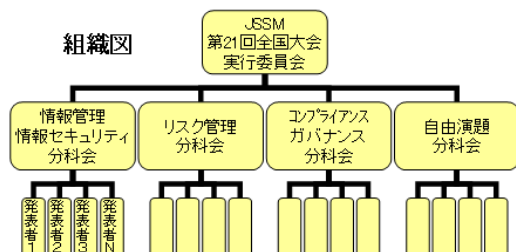


図 1 図の例

#### 4.3. 数式

数式の番号は、下記サンプルのように番号をつける。

$$p(\lambda | y) = \frac{p(y | \lambda)p(\lambda)}{p(y)} \quad (1)$$

#### 4.4. 参考文献

参考文献は、文中で引用（参考）箇所に一連番号を引用された順に付けることとし、かぎカッコで [1], [2], [3] などと記載し、本文末尾に番号順に参考文献を記載する。

表 1 表の例

Part	Font size
Title (Japanese)	LARGE
Title (English)	Large
Author(organization)	normalsize
Abstract	normalsize
Headings	Large, large
Body	normalsize
Footnote	small

雑誌はこのテンプレートの例 [1], [2] に倣い執筆者名, 「題名」, 出版社名, ○巻○号, 発行年月, 引用（参考）頁の順に記載する。 [1], [2]

書籍は, 例 [3], [4] に倣って, 邦文・英文ともに, 著者名, 「書名」, 出版社名, 発行年月, 引用頁の順に記載する。 [3], [4]

インターネット情報は, 例 [5] に倣って, 提供元, 情報タイトルとその URL を記載する。 [5]

必要に応じて引用文献とは別に, 参考文献をつける。その場合は, 著者のアルファベット順, 年代順に掲げ, 記載事項は引用の場合に準じる。

#### 5. 著作権

提出された最終原稿の著作権は本学会と著者に帰属する。

#### 6. まとめ

以上, 本テンプレートに従って原稿作成をお願いします。不明な点は, 提出先アドレス ([jssm38conf@jssm.net](mailto:jssm38conf@jssm.net)) までメールにて問い合わせる。原則として以下の分担で対応する。

- (1) 「研究会セッション」  
責任者：織茂委員
- (2) 「自由論題」  
責任者：柿崎プログラム委員長
- (3) 「学生セッション」  
責任者：柿崎プログラム委員長

#### 参考文献

- [1] 情報花子, 「情報科学：研究所における情報管理」, 日本セキュリティ・マネジメント学会誌, 第 21 巻 第 6 号, 2007 年, pp.21-42
- [2] Arnold, Cooper, 'Story of Property Rights', Abc University Review Vol.11, No.1, 2007, pp.128-256
- [3] 情報太郎, 「リスク管理」, ○○出版, 2007 年 3 月, p.128

- [4] William, Wain, ‘Financial Structure Research’ Xyz Economic Press, 1970 pp.135-246
- [5] (株) △△, 個人情報保護法について,  
<[http://www. △△.co.jp/faq.html](http://www.△△.co.jp/faq.html)>,  
2008 年 3 月 3 日アクセス